

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会 鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会

- 日 時 令和5年2月25日（土） 午後2時～午後3時15分
- 場 所 鳥取県健康会館（鳥取県医師会館） 鳥取市戎町
- 出席者 21人
渡辺健対協会長、磯本部会長、謝花専門委員長
秋藤・岡田・尾崎・田中究・田中琴・野口・藤井・丸山・三宅・
八島・山根各委員
県健康政策課：萬井課長
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：上田課長補佐、岡係長
健対協事務局：岡本事務局長、岩垣次長、梅村主任、廣瀬主事

【概要】

- ・ 令和3年度の受診率は26.9%で前年度に比べ2.5ポイント増加した。胃がん検診における内視鏡検査の実施割合は83.7%で、年々増加している。

X線検査の集団検診の要精検率は6.6%（東部3.9%、中部8.8%、西部8.9%）、医療機関検診は8.9%（東部7.6%、中部7.4%、西部10.5%）であった。

- ・ 令和3年度胃がん検診発見がん患者確定調査最終結果報告があった。確定胃癌は130例（一次検査がX線検査：車検診8例、一次検査が内視鏡検査：122例）、前年度に比べ、3例減少した。癌発見率は0.267%（東部0.255%、中部0.192%、西部0.313%）であった。

- ・ 令和元年度から3年度の受診者数、受診率を市町村ごとに比較し、市町村へ聞き取り調査を行った。令和2年度から令和3年度にかけて受診率は回復傾向である。東部では、60歳代の減少が顕著であり、男女とも

に減少しているが、女性が男性に比べて若干減少幅が大きい。中部では、個別検診が増加傾向である。西部では、個別検診の広域化を始めた市町村では、受診者が順調に回復している。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

本県においても、新型コロナウイルス感染拡大が非常に大きかったが、収束の兆しが少し見えてきた。引き続き感染対策を行っていく必要があるが、今年の5月には現在の「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行するので、併せて医療提供体制を整えていく必要がある。感染者数は減少しているが、まだ予断を許さない状況で注視していかなければならない。がん検診も新型コロナウイルスの影響を受け受診者数が減少したが、少しずつ戻ってきている。本日は忌憚ないご意見をいただきたい。

〈磯本部会長〉

本日は議題が豊富にあるので、皆様と情報共有をしながら充実した会となるよう、進行したい。

〈謝花委員長〉

前はハイブリッド開催であったが、今回は参集して開催でき嬉しく思う。新型コロナウイルスの影響を受け、受診者数が減少していたが、徐々に戻りつつある。今後も鳥取県の胃がん検診が発展するよう努めていく。

報告事項

1. 令和3年度胃がん検診実績報告並びに令和4年度実績見込み及び令和5年度計画について 〈県健康政策課調べ〉：

岡 県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
〔令和3年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）181,414人のうち、受診者数はX線検査7,943人、内視鏡検査は40,801人で合計48,744人、受診率は26.9%で前年度に比べ2.5ポイント増加した。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は83.7%で、年々増加している。

このうち、40歳から69歳（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）では、対象者数63,987人、受診者数22,900人、受診率35.8%であった。

X線検査の要精検者数は540人、要精検率6.8%で、前年度より0.4ポイント減少した。精検受診者数452人、精検受診率は83.7%で前年度より1.5ポイント減少した。集団検診の要精検率6.6%（東部3.9%、中部8.8%、西部8.9%）、医療機関検診は8.9%（東部7.6%、中部7.4%、西部10.5%）であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,137人、組織診実施率は2.8%で、東部3.1%、中部2.9%、西部2.4%であった。

検査の結果、胃がん129人（X線検査8人、内

視鏡検査121人）、がん発見率（がん／受診者数）は、0.26%（X線検査0.10%、内視鏡検査0.30%）で、前年度に比べ、胃がん9人、がん発見率は0.04ポイント減であった。胃がん疑いは49人（X線検査1人、内視鏡検査48人）で減少してきている。

陽性反応適中度（がん／要精検者）はX線検査1.5%で、東部1.3%、中部0.6%、西部2.3%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ10.6%で、東部9.5%、中部8.3%、西部13.2%であった。

〔令和4年度実績見込み及び令和5年度計画〕

令和4年度実績見込みは、対象者数181,414人に対し、受診者数は48,882人、受診率26.9%の見込みである。また、令和5年度実施計画は、受診者数51,055人、受診率28.1%である。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：三宅委員

〔住民検診〕

令和3年度の受診者数6,992人で令和2年度に比べ246人の増加である。

そのうち、要精検者462人、要精検率6.6%（東部3.9%、中部8.7%、西部9.0%）で、判定4と5の割合は3.2%（東部4.0%、中部1.8%、西部4.0%）であった。

要精検者数に対するがん発見率は1.9%（東部1.6%、中部0.6%、西部3.4%）であった。

受診勧奨は市町村より行われているが、精検結果未報告は15.6%であった。がん発見率は0.13%であった。

初回受診者は892人で、要精検者は69人、要精検率は7.7%であった。判定4と5の割合は5.8%で、要精検者数に対するがん発見率は2.9%であった。

〔一般事業所検診〕

受診者16,978人のうち、要精検者は915人で、要精検率は5.4%で、判定4と5の割合6.6%で、

要精検者数に対するがん発見率は0.9%であった。判定4と5の精検結果未報告については、精検結果未報告は33.9%と依然として高い。がん発見率は0.05%である。

2. 令和3年度胃がん検診発見がん患者確定調査結果について：田中委員

確定胃癌は130例（一次検査がX線検査：車検診8例、一次検査が内視鏡検査：122例）で、前年度に比べ、3例減少した。癌発見率は0.267%（東部0.255%、中部0.192%、西部0.313%）であった。

調査結果は以下のとおりである。

- (1) 早期癌は107例、進行癌は23例であった。早期癌率は82.3%（東部88.5%、中部70.6%、西部80.3%）であった。
- (2) 切除は67例で、内視鏡切除が61例であった。非切除例が2例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性94例、女性36例であった。40歳代はなく、50歳代2例、60歳代17例、70歳代72例、80歳以上39例で、70歳代の男性が多い。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が63%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が44%を占めている。例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以下のものが59%を占めている。一方で5cm以上のものが21例認められた。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが5例で62.50%、内視鏡検査ではstage I Aが91例で76.47%であった。Stage IVが内視鏡検査で2例見つかった。
- (7) 逐年検診発見進行癌は4例（東部3例、西部1例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。
- (8) 令和2年度検診発見進行癌の前年度検査結果を調査した。

令和2年度は5例のうち、異常なしは4例、

慢性胃炎は1例であった。

3. 令和3年度各地区胃がん検診読影委員会の実施状況について

(1) 車検診の読影状況について

読影会は、読影委員2名による画像観察機（ビューアー）を使用した読影を行っている。

東部：鳥取県保健事業団分は35回読影を行い、読影件数は4,001件で、要精検率3.2%、平均読影件数114件。中国労働衛生協会分は、読影件数149件で、要精検率4.0%、平均読影件数8件。症例検討会を1回開催。

中部：23回読影を行い、読影件数2,231件（藤井委員）で、要精検率が8.2%、平均読影件数97件。症例検討会を1回開催。

西部：25回読影を行い、読影件数は2,678（謝花委員長）件。平均読影数107件、要精検率は8.5%であった。症例検討会を1回開催。

(2) 医療機関検診の読影状況について

東部：鳥取市、岩美町、八頭町、智頭町の（尾崎委員）X線検査は検診機関ごとに指定された読影医師2名のダブルチェックにより読影を行っている。

鳥取市、岩美町、八頭町、若桜町、智頭町で行われた内視鏡検診については、平成21年度より東部胃がん内視鏡検診読影専門委員会を設置し、平成26年度より東部医師会館にて読影会を開催、週2回内視鏡検診読影専門委員2名で読影を行っている。

令和3年度の内視鏡検診件数は16,738件で、内視鏡の生検率は3.4%であった。読影回数187回。

中部：平成9年度より医療機関検診読影委員会を設置し、中部医師会館におい

て読影委員2名で読影会を開催している。1市4町（倉吉市、湯梨浜町、三朝町、北栄町、琴浦町の間ドック分）で行われた検診の読影を中部医師会館で行うこととなった。

令和3年度実績は以下のとおり。

X線検査読影件数：27人 要精検率：7.4%

内視鏡検査読影件数：6,277人、内視鏡要精検率0.7%であった。

西 部：米子市、伯耆町、日吉津村、大山町
(謝花委員長) は、健対協胃がん検診読影委員会委員と同じ読影委員がメンバーで医療機関検診読影委員会を設置している。読影委員2名と検診医で読影会を行う。読影件数11,047件、読影回数は100回で、X線検査読影件数217件で要精検率9.7%、内視鏡検査読影件数10,830件で、組織診実施者209人、再検査64人、要治療21人、その他の疾病8,707人、内視鏡要生検率1.9%であった。

境港市は健対協胃がん検診読影委員会委員4名と済生会境港総合病院消化器科の医師で、境港読影委員会を設置。8月～2月までの間、済生会境港総合病院を会場に月1回の読影会を開催。原則として読影委員2名と検診医の計3名で読影（胃内視鏡検査フィルム・胃X線検査フィルム）を行っている。読影件数2,747件、読影回数は7回で、X線検査読影件数93件、内視鏡検査読影件数2,654件であった。

南部町、江府町の検診については、受託した医療機関内の健対協胃がん検診読影委員会委員で読影を行っている。

日南町については、平成29年度よ

り江府町・南部町の受託医療機関にて読影を行っている。

日野町検診については、令和2年11月より日野病院医師により読影されている。

4. ピロリ菌検査の実績について：

岡 県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
○北栄町、協会けんぽの取り組みについて、令和3年度実績（確定値）及び令和4年度実績（令和5年1月末時点）について報告があった。また、同様の事業を令和5年度から琴浦町でも行う予定である。

北栄町：

（令和3年度）受診者数113人、尿中ピロリ菌抗体検査陽性11人、尿素呼気試験陽性4人除菌治療実施者4人

（令和4年度（R5.1月末時点））

受診者数92人、尿中ピロリ菌抗体検査陽性8人、尿素呼気試験陽性2人、除菌治療実施者1人

協会けんぽ：

（令和3年度）受診者数1,441人、要精密検査160人、保菌率11.1%

○市町村と連携して行う胃がん対策事業について（令和2年度から実施）

○対策型検診に伴ったリスク層別化検査

実施主体：市町村

対象者：当該市町村に居住する者

40歳～65歳（70歳）

検査方法：リスク層別化検査（胃がん検診と併せて実施する場合に限る）

○若年層に対する胃がん予防対策

実施主体：市町村

対象者：当該市町村に居住する者

20歳～39歳

検査方法：リスク層別化検査等、その他鳥取

県健康対策協議会が認める方法

○実績：5町が実施。

受診者数303人、陽性者数145人、内視鏡検査受診者69人、除菌治療（予定）者24人

委員からは、以下のとおり、意見があった。

・対象者数が減少したのではないか。

⇒1町の報告数がかなり減った影響により、減少している。

・40歳未満の陽性者数が増加している。もう一度人数の確認をして欲しい。

⇒確認し、報告する。

5. 新型コロナウイルスのがん検診等への影響について：

岡 県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
令和元年度から3年度の受診者数、受診率を市町村ごとに比較し、市町村へ聞き取りを行った。令和2年度から令和3年度にかけて、受診率は回復傾向である。東部では、60歳代の減少が顕著であり、男女ともに減少しているが、女性が男性に比べて若干減少幅が大きい。中部では、かかりつけ医で検診受診されている人が増えているのか、個別検診が増加傾向である。西部では、個別検診の広域化を始めた自治体では、受診者が順調に回復している。

6. その他

（1）75歳未満がん年齢調整死亡率等について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

国立がん研究センターが令和3年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、令和3年は68.1（前年68.6）で28位（前年23位）となり、2年連続で、県がん対策推進計画の目標値（令和5年死亡率70.0未満）を達成した。鳥取県は母数となる人口が少なく死亡率の変化が大きくなる傾向があるので、今後も推移を注視している。

胃がんの死亡率は8.5（前年7.9）で、全国45位だった。

（2）共通資料から：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

○平成31年（令和元年）の全国がん登録のデータに基づくがん罹患の状況（令和4年5月公表）

平成31年に新たにがんと診断された患者は全国で999,075人、鳥取県で5,161人（平成30年5,001人）。

人口10万対のがん年齢調整罹患率は、全国で387.4。鳥取県は411.5（44位：ワースト4位）（平成30年411.0 47位：ワースト1位）。

部位別にみると、男女計：①胃②大腸③肺④前立腺⑤乳房の順で罹患数が多くなっている。

○国民生活基礎調査による飲酒率、喫煙率、平成28年国民健康・栄養調査（BMI、食塩摂取量、歩数、野菜摂取量）は、調査の周期やコロナの感染拡大により調査が中止のため、昨年と同じデータである。

（3）県の来年度当初予算について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

ほぼ例年どおりの予算を計上しているが、安心して暮らせる社会づくり（患者支援）事業の中の、医療用ウィッグ・補正下着等の購入費用の助成では助成上限額を2万円から5万円に引き上げる。

また、疾病構造調査研究事業で行っている「特定健康診査・後期高齢者健診からの肝臓がん高リスク患者拾い上げについて」の研究で、高リスクの方に対して、定期検査の受診勧奨を行っているが、令和5年度から検査費用の助成を行う予定にしている。

協議事項

1. がんの利益・不利益について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

令和3年10月1日に国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正され、「がん検診の対象者自身が、がん検診の利益・不利益を考慮した上で受診を検討することが望ましい」との記載が追加された。本県でも、各がん検診実施の手引きにこの旨を追加するため、令和3年度の各部会において協議している。今回示しているのは、市町村等が普及啓発のための広報素材として活用するための文面例である。今後周知していくにあたり、がん検診の利益・不利益の具体的な説明内容について協議した。

(委員からの意見)

- ・検査にともなう偶発症の項目に胃の内視鏡検査での例が記載されているが、このことについては内視鏡検査前に同意書をいただくので、こ

での記載は必要ないのではないか。また、次の精密検査医療機関登録更新の手続きの際に、診療所においては内視鏡検査前に同意書をいただいているのか、確認をした方がよいのではないかな。

- ・過剰診断の項目の説明文は今のままでは不十分なので、文面の変更を検討して欲しい。

2. 第4次鳥取県がん対策推進計画の策定について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

平成30年を始期とする現在の「第3次鳥取県がん対策推進計画（期間6年間）」は、令和5年度に計画期間が終了することから、令和4年度から令和5年度にかけて次期計画の内容を検討していく。「鳥取県がん対策推進県民会議」を中心として検討を行っていく予定であるが、健対協にも対策の必要な項目や設定すべき個別目標等について、ご意見伺いたい。

胃がん検診従事者講習会及び症例研究会

日 時 令和5年2月25日（土）

午後4時～午後5時30分

場 所 鳥取県健康会館（鳥取県医師会館）

鳥取市戎町

出席者 131名（医師：129名、保健師2名）

岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会長 磯本 一先生の座長により、広島大学病院 総合内科・総合診療科 教授 伊藤公訓先生による「正しいピロリ感染診断に基づく効率的な

胃がん検診」の講演があった。

症例検討

鳥取県立中央病院 田中 究先生の進行により、3地区から症例を報告していただき、検討を行った。

- 1) 西部症例（1例）：鳥取大学医学部附属病院
八島一夫先生
- 2) 中部症例（1例）：鳥取県立厚生病院
藤井雄基先生
- 3) 東部症例（1例）：鳥取市立病院
相見正史先生